

帰宅困難者対策、避難者対策の検討フロー(案)

検討の背景・経緯、検討の進め方

- 検討の背景・経緯
- 既往災害における帰宅困難者・避難者の状況
- 主な課題と対応策(案)

現状の対策と課題

- 委員等の報告や事務局による既存資料整理等による現状の対策と課題
(帰宅困難者対策) 安否確認システム、行政の取組、地域の取組、学校の取組、
徒歩帰宅支援 等
- (避難者対策) 空き家・空き室の利用、ホテル・旅館の活用、応急危険度判定 等

時系列別の状況と課題

- 帰宅困難者約 650 万人等の発生に伴う状況と課題
- 避難所生活者約 460 万人の発生に伴う状況と課題

今後新たに進めるべき対策とその課題

- 帰宅困難者、避難者に関して、今後新たに進めるべき対策とその課題

課題の具体的解決策

- ①関係者の意向等の把握
(帰宅困難者対策)
○帰宅困難者になることを想定した通勤・通学者等の意向
○一時収容に対する企業、学校等の意向
○帰宅支援に対するコンビニ、GS、鉄道・道路の関係者等の意向 等
- (避難者対策)
○避難者になることを想定した住民の意向
○避難者収容に対するホテル・旅館、家主、不動産業者等の意向 等
- ②解決策の具体化
(帰宅困難者対策) 安否確認情報の提供、「むやみに移動を開始しない」対応促進施策の具体化、一時休憩施設の確保・帰宅支援情報の提供、企業・学校における備蓄等、大規模集客施設での場所の提供等 等
- (避難者対策) 帰省・疎開の奨励・あっせん、応急危険度判定による従前住宅の利用促進、公的・民間施設、ホテル・旅館等の活用、空き家・空き室の活用、応急仮設住宅の早期提供 等

対策の効果

- 対策の効果の評価手法の検討と効果の把握

具体的な帰宅困難者対策、避難者対策の提言

平成 18 年度

平成 19 年度

※途中で新たな課題等が発生した場合には、検討内容を適宜修正

赤枠内：今回の専門調査会における検討対象